

特集 新聞を読もう

近いうちに新着新刊図書として書棚に並ぶ『この1冊で経済・金融通になれる 入門ぱっと読める日経新聞 難関だった経済記事がらくらく理解できる』日向野利治著 明日香出版の contents(もくじ)を紹介します。この contents を頭に入れて日経新聞を読めば、日経新聞は難しいという先入観はなくなることうけあいです。また本書の新聞の読み方は、日経だけではなく朝日・毎日・読売・日経流通・日経産業・日刊工業にも十分活用できます。国内・外の政治・経済問題、国際関係に眼が自然に向くようになります。

CONTENTS(もくじ)

1章 朝 10 分の「拾い読み」で一日が決まる

「見出し読み」だけなら「朝 10 分」で十分
見出しにはその日の記事の重要部分が凝縮されている
見出しの大小・配置で記事の重要度を量る
毎日、同じコラム・データを読み
社説・春秋(朝日の天声人語にあたる)・
今日のことは・ニューフェイス・大機小機
一面の記事はその日のニュースのハイライト

2章 これからの経済を読むこの重要なテーマをはずすな

金融機関の合併の裏に何が起きているか
日本興業銀行・富士銀行・第一勧業銀行合併
住友銀行・さくら銀行合併
経済を動かすのは政治の力学である
政権の動きを見ることで、これからの政策がわかる
首脳会談では為替問題が主要テーマとなる
百貨店の売り上げ状況は、大切な景気の信号
金融問題のポイントは「金融再生委員会」だ
「ペイオフ」をどうするか
連載ものから大切な知識やデータをつかめ
アメリカ企業の経営状況は日本に直結する
アメリカの貿易姿勢が日本の海外戦略をかえる
アメリカ大統領の言動は日本・世界を動かす
アジア経済や失業問題は日本を直撃する
住宅の売れ行きは重要な景気指標
大手流通業界にも限界がきた旧来の営業姿勢
ダイエー、イトーヨーカドー、ニチイマイカル、
ジャスコ、西友の売り上げのダウン
金融機関は生き残りをかけて合併に走る

- 3章 株式欄のわかりやすい読み方
- 4章 金融・為替に関する記事の読み方
- 5章 金融・為替記事のポイント
- 6章 経済記事の読みこなし方

「自動車の売れ行き」で日本の景気がわかる

最悪のさなかにある建設業

ビッグバン時代に生き残る M & A

景気停滞で失業者が急増

経費削減のためのリストラ 9月末失業率 4.7% 失業者数 334 万人は横浜市人口に匹敵する

不透明さを強める日本経済はこれからどうなる 経済企画庁は 景気は底をついた と言っていますが

景気を反映して鋼材も底割れ寸前

住宅の値下がりとかけ込み需要

都市銀行の住宅ローンはなぜ伸びるか

日経の決算・財務などの記事には注目

人材派遣業までが値下げ競争とは

パソコンは個人ユーザーから動く

ヤオハンなぜ潰れたか

銀行もコンビニで営業する

借入れ・ATM・資産運用ローンの設置

以上 CONTENTS(もくじ)を紹介しました。

図書館 1 F の新聞閲覧デスクには当日およびその週の朝日・毎日・読売・日経・埼玉・日経流通・日経産業・日刊工業・サンケイスポーツ・報知・JAPAN TIMES・Herald Tribune が常設されています。また、図書館インターネットの「情報リンク集」を開くと上記の新聞すべてが閲覧できます。参考までに日本全国の朝刊発行部数をみると、全国紙{朝・毎・読・日経・産経}2,556 万、ブロック紙{北海道・東京中日・西日本}536 万、地方紙 1,190 万、スポーツ紙 510 万、合計で 4,792 万部です。日本の全世帯数は 4,550 万世帯ですから、各家庭で少なくとも 1 紙は購読していることとなります。ということで皆さんも 1 日に 1 回は新聞に眼を向け、内外の政治・経済の動き、国際関係に関心をもつ習慣をつけましょう。